

鳴海ヶ丘新聞

第4号

2014年3月12日



文化芸術トピックス
日本の文化に
ふれよう!

黄四組

子どもたちは、この劇あそびを通して、クラスで演じた物語が大好きになりました。発表が終わったあとも、いろいろな役を交代したりして、まだ劇あそびはそれぞれで続いています。クラスみんなで一つ



になつて作り上げた物語。子どもたちの心につまみでしう。



三月三日の雛祭りの日。雛祭りってどんな日なの？雛人形にはどんなものがあるの？先生から雛祭りのお話をいろいろ教えてもらった子どもたち。実際に、雛人形を作ってみることにしました。お内裏様とお雛様にきれいな色をつけた着物を着せて、扇子としゃくを持たせたら、とってもかわいい雛人形が

青二組

できあがりしました。みんなも大満足♪おうちでも飾っていただけましたか？



劇あそび発表会では、猿神退治を演じました。今昔物語の話をもとに作られた物語です。日本に古くから伝わるこのお話。神社の神主さんという、普段なじみのない役が出てきます。神社とはどういう場所なのか、神主さんとはどんな人なのか。先生と一緒にクイズをしたりしながら、楽しみつつたくさん知識を深めました。本番、子どもたちは見事に神主になりきりました。

「マイカルチャー」
「日本のお茶」
私は日本茶好きの家庭に育ちました。父も母も、食事中は必ず夏以外に緑茶をいただき、夏でもお菓子をしたくときは必ず熱い緑茶でした。子どもの私は急須で入れた緑茶なんて苦いだけとしか思っていませんでした。
それを、毎回おいしそうに飲む両親。大人になるって、苦い経験をすることかなとも思いました。そんな私も今は、「一番好きな飲み物は？」と尋ねられたら、間違いなく日本茶（緑茶）と即答します。私も違いがわかる年齢になったということでしょうか？それとも、お茶以外に苦い経験を沢山味わったからでしょうか？
そして、今の時代、お茶とはペットボトルに入っていて気軽に買って飲むもの、という感覚になりました。十数年前はどうだったでしょうか？お茶を百五十円も出して買う、という感覚があったのでしょうか？千利休がこの光景を目にしたら何と云うのかなと考えると少し笑ってしまいます。

お茶を淹れて飲むことは、とても簡単です。「お茶をどうぞ。」の一言で場が和み、空間を共有できるのが日本流おもてなし。では、急須とお茶碗の用意はできましたか？
① 急須に茶葉を入れて、お湯を注ぐ。

② それをお茶碗に注ぐ。
これで、「お茶を淹れる」という行為は完璧です。おいしい味も自分好み！是非ご家庭でもほっこり・まとりのひと時を過ごして、日本茶の楽しさをお子様にも伝えてみてはいかがでしょうか。

主事

柘植理摩



二月二十日、豊明市文化会館小ホールにて、劇あそび発表会がひらかれました。劇の身振りあそびから始まり、一月の保育参観で見えていた劇ごっこ、そして劇あそびへと発展させていきました。最初は、せりふを言うのも恥ずかしかがっていた子どもたち。練習を重ねるごとに、役の気持ちや理解し、役になりきる事ができるようになりました。毎日、とても楽しんで取り組んでいました。本番当日は、大きな舞台で少し緊張している様子も見られましたが、ひとりひとりが精いっぱい役を演じることができたのではないかと思います。



春のきざし

暦の上では啓蟄を迎えました。春の陽気に誘われ、土の中の虫が動き出す頃です。幼稚園の中でも寒さをぶりかえしながら、少しずつ春のきざしが見え始めています。前庭では今、梅が満開です。



なるなる畑やイースト広場には、春の野草が咲きました。小さなお花なので、よく探さないと見つかりませんが、子どもたちは虫めがねで観察したりしながら春見つけを楽しんでいます。



春本番までもう少しです。運動場のしだれ桜のつぼみも日に日に大きくなっていきます。新しい学期もトを迎えています。